令和３年度第１回御前崎市総合教育会議

日　時　令和３年９月28日（木）
午前９時00分～10時30分
会　場　御前崎市役所　３階　303会議室

１　開　　会
２　市長あいさつ
３　教育長あいさつ
４　協　　議
（１）　令和３年度全国学力学習調査の結果等について
・　教科（国語・算数）に関する調査より
・　ｉ－ｃｈｅｃｋ（標準学力調査）より
（２）　その他
５　閉　　会

出席者名簿（敬称略）

市長	柳澤重夫
教育長	河原﨑全
教育委員	竹田和世
〃	島田惠美
〃	松林義樹
〃	野口智美
御前崎市牧之原市学校組合教育委員	増田克之
〃	原﨑志保
総務部長	鈴木雅美
健康福祉部長	齊藤芳樹
教育部長	長尾詔司
社会教育課長	小野田明人
学校教育課長	鈴木秀和
教育総務課長	髙田和幸
教育総務課課長補佐	栗林正和

欠席者名簿（敬称略）

なし

１　開　　会

○司会
　最初に互礼を交わしたいと思います。お互いに礼。お願いします。御着席ください。
　それでは、ただいまから令和３年度第１回御前崎市総合教育会議を開会いたします。最初に市長あいさつ。柳澤市長、お願いいたします。

２　市長あいさつ

○御前崎市長（柳澤重夫）
　皆さんおはようございます。９月も下旬に入りまして、朝夕はめっきりと涼しくなりました。北の山間のほうからは紅葉の便りも聞かれるようになりまして、誠に秋の深まりといいますか、そういったものも感じるところであります。また、台風 16 号も南海上にありますが、どうも日本列島の南海上を通るようなコースではありますが、なにせ大型の台風でありますので、少なからず影響があるのではないかと思います。皆さんにも十分な御注意をお願いしたいと思います。
　また、今日は、令和３年度の第１回総合教育会議をお願いしましたところ、皆さんには何かとお忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。また、日頃から御前崎市の教育に対しまして、格別の御理解と御指導をいただいておりますこと、大変、御礼を申し上げます。
　早速、ただいまから総合教育会議を始めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○司会　それでは続きまして、教育長あいさつ。河原﨑教育長、お願いいたします。

３　教育長あいさつ

○教育長（河原﨑　全）
　改めまして、おはようございます。早朝よりお集まりいただきましてありがとうございます。
　今日は９月 28 日でございますが、ひと月前を振り返りますと２学期の始業式がちょうど始まるころで、またコロナも感染者が多い状況だったのでどうしようかということで、１週間、夏休みを延長させていただいたところです。２学期が始まってちょうど４週間になりますけれども、本当に学校内でもコロナの感染の拡大を心配したのですけれども、おかげさまで、クラスター的なものは１件も起こらずに今のところきておりますので、最初の１つの山場を無事過ごすことが出来たのかなと思っています。これも、子供たちが子供たちなりにいろいろなところに気をつけてくれたこと、御家庭も大変協力的でさまざまな情報を学校に上げてくれたこと、また、教職員も普段の業務もある中で消毒活動等も本当にまめにやってくださっていることで、本当に皆が協力してくれたおかげで、なんとか綱渡りながらも綱から落ちずにここまで来られたと思っています。またこれからも何も無いわけではないものですから、いつ何があるかわかりませんけれども、緊張感を持って教育活動を展開していかなくてはいけないと思っています。
　今日は、第１回の総合教育会議ということで、例年、この回では、全国学力学習状況調査の結果を報告させていただいております。特に今年度については、昨年度４月、５月、２か月間学校が休校でした分、大分授業が駆け足になったのではないかということ、子供たちがその影響をどういうふうに受けているかという、そんなところの検証も、これでできるのではないかなと思っております。今年度が始まって半分ぐらい経っているのですが、この調査をやったのが５月です

ので、今年度のことというよりも、むしろ昨年度の教育活動がどうだったかということの１つの検証になるかと思いますので、そんなところも心に留めながら報告を聞いていただければありがたいと思います。また、学力調査のことに限りませんので、普段思っていらっしゃることを忌憚なくおっしゃっていただければありがたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○司会
　ありがとうございました。それでは次第に沿いまして進めさせていただきます。続いて、４番の協議に入らせていただきます。協議内の進行は、市長にお願いいたします。それでは、市長、お願いします。

４　協　　議
（１）　令和３年度全国学力学習調査の結果等について
・　教科（国語・算数）に関する調査より
・　ｉ－ｃｈｅｃｋ（標準学力調査）より
（２）　その他

○御前崎市長（柳澤重夫）
　それでは会議を始めさせていただきます。今回の総合教育会議は、令和３年度に実施しました全国の学力学習状況調査と、市独自で実施しました標準学力調査を報告させていただきます。それをもとにして、今後の御前崎市の教育について委員の皆さんから御意見をいただき、また御協議をいただければと思っておりますので、ぜひともよろしくお願いします。
　それでは、早速ですが、全国学力学習調査評価に関する調査結果について、事務局から御報告をお願いします。

○学校教育課長（鈴木秀和）　おはようございます。私からは、まず、最初に令和３年度学力学習状況調査の教科に関する調査の結果について御説明いたします。
　実施日ですが、例年どおりの４月に行う予定でしたが、今年度はコロナの影響で５月 27 日に行いました。
　この全国学力学習状況調査、小学校については、調査対象の児童が全国の約 106 万人です。小学校６年生の平均正答率ですが、国語については、本市の小学生は正答率62％で、全国との正答率の差はマイナス 2.7％です。算数につきましては、国語よりもう少し開きがあって 65％、差はマイナス 5.2％です。
　続いて、中学校３年生の全国学力学習調査の教科に関する調査結果ですが、中学校の平均正答率は、国語につきましては、当市が 61.4％で、全国との差はマイナス 3.2 ポイントです。数学につきましては、56.4％で、差はマイナス 0.8 ポイントです。この子たちは、小学校６年生のときにも、全国学力学習状況調査を受けていて、そのときの全国との差は、実は国語がマイナス 5.7 ポイント、算数についてはマイナス 6.5 ポイントでしたので、当時に比べると、平均正答率の差がかなり埋まっている状態です。中学３年間の中で着実に学力は向上しつつあると考えています。
　続いて、同じ日に、市で独自で行っております標準学力調査をやらせていただきました。小学校２年生から５年生、それから、中学校１年生と２年生ということで、小学校１年生を除いた全ての学年で行わせていただきました。その経過について報告をいたします。
　まず受験者数というところを見ていただくと、小学校が全国で 16 万人です。先ほど申し上げたように１学年が大体 100 万人ちょっとですので、大体、全国の 20％程度の子供たちがこの標準

学力調査をやっているということになりますので、全国学力学習状況調査ほど正確な位置というものではありませんが、子供たちの傾向として分かることが幾つかあると思っています。軒並み小学校の２年生から５年生については、全国の平均正答率よりもマイナスポイントが多いです。特に小学校３年生については、国語も算数も少し開きがあるなということと、小学校４年生の算数も少し開きが大きいかなと感じます。

続いて、同じ標準学力調査の中学生、１年生と２年生については、全国よりも、中学校１年生は数学がプラス 1.3 ポイント、それから、中学校２年生については数学がプラス 1.8 ポイントですので、全国とほぼ同じぐらい、数学についてはやや高いという結果が得られました。こちらも受験者数は、中学生の場合は全国で 109 万人程度に対して１年生が 16 万人、２年生が 18 万人ですので、こちらも 20％くらいの調査母数になるのかなと思います。

資料のグラフの見方ですが、お手元に事前に配布させていただいたものに少し間違いがありまして、横軸が実は正答数です。ですので、横に行けば行くほど正答数の高い子供たちで、縦がその人数ということになりますので、例えば、この小学校のグラフの国語については、全国の正答率の高い子の割合が、平均に対して本市は、正答率の高い子の割合が全国よりもちょっと少ないです。逆に、当市は中位の子たちの割合が、国語については人数の割合が多いということが言えるということです。算数も同じような見方をしていただきたいなと思います。これは国語がやや低い、それから算数については低いということが言えます。

これについては、９月 10 日に授業改善推進委員会で各学校の研修主任を集めたところに、静岡大学の村山功教授をお招きして、この標準学力調査の結果の分析を行いました。村山先生の分析では、最下位層が多いわけではなくて、中位層が多い。それから上位層が少ないというのが小学校の学力の傾向にあると。それから、先ほど見ていただきましたが、小学校２年生から４年生の学力にやや課題があるだろうということ。小学校の２年生、３年生の算数、特に基礎基本に力を入れる必要性があるのではないかということ。ただ、分布図から全くわからないという子供の割合が大きいわけではないので、練習量を増やすことや、課題の難易度を高くしていく必要があるのではないかという分析をいただきました。

こちらは、中学校１年生、２年生の国語、数学の人数の分布になります。正答率も全国とそう変わらなかったのですが、人数の分布で見ると、やはり中層が当市については多いと言えると思います。こちらは、村山先生の分析の結果になります。中学校の学力の傾向ですが、下位層が多いわけではなくて、中位層が多く、上位層が少ない。小学校から見ると、学力は確かに向上している傾向にあって、ここ数年で安定してきているという分析をいただいています。

全国学力学習状況調査の中から、学力に関する質問紙調査の結果を御説明いたします。家で自分で計画を立てて学習していますかという問いについてですが、小学校はよくしていると答えている子供が 27.7％、それから中学校では 13.8％ですので、全国の子供たちに比べると、計画を立てて学習していると力強く答えられている子供たちは、若干少ないのかなと。ただ、時々しているっていう答えを合わせると大体全国と同じくらいになるのかなということになります。それから、平日、１日当たりどれぐらいの勉強をしますかという質問についてですが、３時間以上と答えている子供については、小学生も中学生も全国よりも少ないです。これは、たくさん勉強すればいいというわけでもないのですけれども、２時間以上について、小学生は 13.8％でやや全国よりも少ないかなと。逆に、中学生は２時間以上と答えている子供の割合が全国よりも高いという結果が出ています。

こちらは、授業の中での子供たちの様子です。子供たちの回答ですが、授業で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、受け止めて自分の考えを伝えていますかという質問について、小学生は当てはまると答えた子供たちが全国よりも 13 ポイント以上

多い。それから中学生も全国よりも多い。これはスクラムスクールプランで、小中で話を聞くということについては、どこの小学校も大事に育ててくれていますし、それを中学校でも大切にして指導をしているので、その結果の表れかなというふうに思っています。一方、話は聞くのですが、自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てを工夫して発表していましたかっていうことについては、小学生は全国よりもやや低い。それから、中学生は同じぐらいですので、しっかり話は聞くのだけれど、自分の考えを表現するということについては、やや課題意識を持っている子供たちが多いのかなというふうに、特に小学校については言えるのかなと思います。

続いて、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたかということについては、これはすごく顕著な差が出ています。小学生では、24.5%で全国よりも低い割合だったのですが、中学生になると42.5%です。これは、やっぱり学習に対する主体的な取組についての意識の差というのが、中学生と小学生ではやはり差があって、平均正答率が全国との差が少ない中学生のほうが、自分で考えて取り組んでいるという回答をする子供たちが多いということからすると、やはり与えられたものを何かするのではなくて、自分で考えていろいろなことをするということについて、小学校の段階から、授業等や家庭学習等で指導していく必要があるのかなと感じています。

続いて、学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを創り出したりする活動を行っていましたかということについても、これもやはり小学生と中学生で差があって、やはり学習に対する主体性というのが中学生と小学生の大きな差で、それがこの結果にもつながっているのではないかなと考えられます。

話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますかという、これは新しい学習指導要領で言われている対話的で深い学びにつながっていく項目になりますけれども、こちらはやはり、話を聞くことはできているのだけれども、話し合いを通じて深めるという点については、やはり小学生のほうに課題があるのかなというようなことがわかってきました。

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげていくことができますかというのも、これもやはり小学生と中学生の差に大きな差があって、中学生のほうが全国よりも高いので、小学生の結果が低かった原因の１つではないかなというふうに分析が出来ます。

これは、新型コロナウイルス感染症に関する項目が、今年度の全国学力学習状況調査の質問紙調査の中にありましたので、それを抜粋した結果になります。新型コロナウイルスの感染拡大で休校していた期間、勉強について不安を感じていましたかということについて、小学生については、当てはまると回答した子供たちというのは、全国よりもやや少なくて、どちらかといえば当てはまると回答した子供たちが、小学生は少し全国よりも多かった。逆に、中学は、心配、不安を感じていたということに回答する子供たちの割合が大きい。これは、やはり中学生が友達同士で意見を言ったり、話し合ったりする中で、自分の考えを見つけて、課題を解決していくという習慣が各教科で出来ているということから考えると、友達と会って意見交換をして勉強をすることについて、それが出来ないことに対しての不安が、小学生よりも中学生のほうが高かったのかなというふうに感じています。

続いて、休校期間に計画的に学習を続けることができましたかということについては、これは当てはまると回答している子供たちが、全国よりも小学生はちょっと少なかったのですが、中学生はやや多かったので、小学生も中学生も休校期間も自分で計画を立てて勉強を進めていった子供たちが多かったのかなと感じます。

続いて、休校していた期間、規則正しい生活を送ることができていましたかということについ

ては、これは小学生も中学生も、全国の平均よりも多いので、早寝早起き朝ごはんだとか、白羽小学校で言えば「あさしおごはん」であるとか、基本的生活習慣を大切にした取組というのが、子供たちの生活習慣の結果についても、コロナ禍でも成果が表れてきていたのかなと思います。

休校していた期間、学校からの課題でわからないことがあった時、どのようにしていましたかということについては、そのままにしたというのが中学生はちょっと多かったので、それがちょっと心配ですが、友達に聞いたり、家族に聞いたり、自分で調べたり、自分で調べている子供たちも多かったです。

全国学力学習状況調査と標準学力調査の結果について、このことから言える成果ですが、下位層が少なくて、中間層が多いので、個別支援が必要な子供たちにとっては、支援員やしおかぜ先生を配置したことによって、丁寧な支援を行うことができているということが言えるのかなと思います。また、下位層が少なくて、中間層が多いので、身につけさせたい力というものを明確にして、わかりやすく丁寧な授業づくりを学校の先生方が進めてきて、基礎基本は定着してきているのかなと感じます。課題ですが、やはり学習に対する主体的な取組というのを、もっともっと授業の中で明確にしていきながら授業改善を進めていく必要があるのかなと思います。特に小学校については、話を一方的に聞くのではなくて、聞いたことをどのように自分の考えに結びつけていけるようにできるのか、そういう授業づくりへの支援が必要なのではないかなと思っています。先ほど、教育長から、昨年度の授業の取組がどうだったのか、今回の結果につながっているというお話がありましたけれども、結果的にはあまり平均正答率が高い状態ではなかったので、いろいろ分析をするところはありますが、昨年度、やはり先生たちが１番苦しんでいたのは何かというと、授業改善をしたいと思っていても、なかなかそこに時間を割くことができなかったということが１つあるのかなと思っています。それから、授業を客観的に振り返るという機会がコロナの影響でほとんどなかった。何かと具体的に言うと、スクラムゼミなどで那須先生に御指導をいただきながら授業改善のポイントを整理するとか、県教育委員会の指導主事の訪問とかというものが、昨年度はコロナの影響でほとんど中止になったものですから、校内研修の足は止めなかったのですけれども、やはりその客観的な事業改善の振り返りというものについて、学校には課題があったのかなというふうに分析をしています。

以上、まずは、教科の学力や、コロナ禍における子供たちの学習状況について、最初に説明させていただきましたので、今、ここまで説明をさせていただいた内容について、委員の皆様から御意見や御感想、御質問等を承れればありがたいと思います。よろしくお願いします。

○御前崎市長（柳澤重夫）　ただいま報告がありましたけれども、この報告に関しまして皆さんとこれから協議をしていきたいと思います。教育委員の皆さんから御意見をお聞かせいただければと思いますので、よろしくお願いします。忌憚のないなんでも結構ですので、今の教育の学力ももちろんそうですが、それに関連して、どういったことでも結構ですので、いろいろなことを御意見いただければと思います。よろしいですか。はい、増田委員。

○教育委員（増田克之）　最初のほうのページですけども、小学校と中学生の平均正答率ですけれども、小学生の場合は今年の６年生ですが、昨年までの学習が重要だということで、昨年確かにそのコロナの関係で授業時間等、本当に駆け足でやった部分もあるのではないかなと思います。２か月ぐらい授業時間が削られて、その中でも先生も子供も頑張ったと思いますけれども、やっぱりそういう落ちついて教師が子供たちに返してやる時間という部分が削られていた。だからこのような、ちょっと残念な結果が出たのではないかなと、私は感じています。

それから、中学生ですけれども、小学校６年のときと比べてかなり実力がアップしていると。

これは、やはり先生方と生徒たちの努力の結果ではないかなと思います。それがやはり中学生が主体的に学習に取り組んでいるということがこの結果から出ていますので、そういう成果につながってきているのではないかなと、私は感じています。

小学生ですけれども、この主体性を持って取り組むというのは、私が協議会をやっているときからも、やはり毎年のように課題に出てきていました。やはり、子供たちの学習をやっぱり価値付けて、子供たちに返すことも必要なのだと。そういうことの繰り返しによって子供たちに主体性が生まれるし、教師は教師として自分の授業を評価判定していく。そして、よりよい授業にしていくということができるのではないかなと思いました。でも、コロナ禍の中で、本当に先生方も生徒たちも頑張っているのではないかなと私は感じています。

○御前崎市長（柳澤重夫）　はい、ありがとうございます。今、そういった御意見がございました。他にも何か。はい、どうぞ、竹田委員。

○教育委員（竹田和世）　この資料を前もっていただきまして、私なりにちょっと思ったことがありました。本気度をもって教科の学力を上げていくというところだけにフォーカスしたら、習熟度別のクラスにするとかっていうこともあると思うのです。上位層の子供がちょっと少ないということですけれども、足踏みをさせないで、もっと上の発展問題に挑戦させていくとか、あと下位層の子供にとっては、教室の中にお客さんでいるのではなくて、やっぱりその子のレベルにあったところを提示されて、少しずつレベルアップをしていくという方法もあるのではないかなということは感じました。

でも、学力という認知能力に対比したものとして非認知能力というのがあると思うのですけども、コロナ禍の中で、私はその非認知能力の大切さというのを身に染みて感じたところがあります。だから、学校へ行くということが子供たちにとって本当にうれしかったというのを、去年、休校の後で感じました。クラスメイトの中で育まれるコミュニケーション能力とか協調性とか、それからできない子とか、苦手なものがある子に対するその優しさとか、労りの心、そういう他者への配慮ができる子っていう、そういう人間力こそが何か必要ではないかなということもすごく思っていて、だから学力とその人間力が 100%対比しているものではなくて、それをどうにかうまく融合させていくことが出来たらいいのではないかなということを漠然と思いました。

あと、今、御前崎市でもアクティブ・ラーニングということを盛んに言われていて、それは、文科省の主体的、対話的な深い学びに結びつくもので、グループ学習や生徒同士の発言によって、みんなで学力を上げていきましょうっていうことだと思うのですけれども、そこで思うのに、やっぱりグループの中で、話し合う課題についての理解力をある程度一致しておかないと、どうしても引っ込み思案の子が出てきてしまうし、それからその発表する子を認め合うみんなというのも周囲にいなくてはいけないわけで、そういう教室の雰囲気づくりというのも大事なのではないかなということ、学習への子供の主体性を育てるためには、まず生き生きとした子供であること、それは苦手意識のために引っ込み思案になってしまう、そういう子をなくさないで生き生きと発言できる子供であることが大事なのではないかなというふうに思いました。

８月の静岡新聞ですけど、高校教科書に３×８とか、36＋42 という、これは実際に国で、東京書籍の数学Ｉということで認められた教科書なのですが、この学び直しということが、今、言われていると思いますが、御前崎市でも、２年生、３年生の学力を見たときに、あのときつまずいてしまうとその先を伸ばすっていうのがなかなか難しくて、もっともっと早い頃、高校ではなくてもっともっと早い段階で手当てをしてあげる必要性があるのではないかなと、そんなふうに思います。

○御前崎市長（柳澤重夫）　ありがとうございます。他にいかがでしょうか。はい、島田委員、どうぞ。

○教育委員（島田惠美）　全国学調の調査で、家で自分で計画を立てて学習していますかという質問のところを見たのですが、自分で計画を立てるということは本当に大切なことの１つだと思います。それで、中学生でときどきしているという子が49.4％、あまりしていないと全くしていないも全部合わせると、よくしている子を除くと８割近くの子が、多分ですけれども、あまりよく理解していないのではないかなと思いました。この子たちは、計画を立てなさいと言われても、何を立てていいかということがはっきり明確になっていないと思うので、そこをまず、１日に自分はどれだけ学習できるか、それをまたクリアできるかということを明確にすることを、先生と一緒に繰り返しやっていくことが大事なのではないかなと思いました。身につくまでやるというのは大変なのですけれども、繰り返しということも、私は重要になってくると思っています。小学校、中学校で計画を立てるということは、基本の基本だと思います。社会に出てからも、こういう要領立てて仕事をするとか、人前で何かをするというものは、本当に必要なものになってくるので、今身につけておくということがとても大事ではないかと思います。この学習の計画は、小中だけでなく高校生も計画を立てるのですけれども、なかなか高校生でも立てられない子が多いと聞きます。やはりこれは、小学校の時から何をやればいいかということをしっかりやっていく必要があるのではないかと思いました。あと、新型コロナウイルスの感染拡大で休校していた期間中、学校からの課題でわからないことがあったら、どのようにしていましたかということで、先ほど鈴木学校教育課長からもお話がありましたけれども、自分で調べたという子が72.5％。これってすごいことだなと思いました。本当に常に小学校から先生方が大切育ててくれて一生懸命やってくれた結果というか、なかなか自分で調べるというのは、この数字で表れるということはすごく成果が出ているのではないかと思いました。

○御前崎市長（柳澤重夫）　はい。ありがとうございます。他にどうですか。はい、どうぞ。

○教育委員（野口智美）　学調で上位層が少ないということについては、私も得意な教科に限ってなのですが、自分のことを思い出してみると、授業でもある程度終わってわかっているのに、みんながついてくるまですごく暇だった時間があったなと思っていたので、何かそこのところ終わった人は、ちょっと先に進める何かっていうのが授業の中であれば、プラス塾とか行かなくてもよくなるかもしれないので、そういった、待たずに先に進めるっていうのもいいのかなと思いました。あと、休みの間の計画についてなんですが、うちの子供たち、小学校、中学校の子供たちも、休みの間の計画を立てたものの、それを実行出来ないということがやっぱりあって、なぜ計画を立ててやらないといけないのか、ただ勉強しないといけないというのではなくて、こういう思いもよらないことが起こったときに、自分でしっかり計画を立てて、その計画を組み立てる力とか、それをやり抜く力とか、うまくいかなかった、何かできると思ったけどできなかったときに、じゃあ、どうやったら実現できる計画にできるのか変えていくという、そういう力が必要だと思うので、計画を立てる勉強というか、そういうところから必要なのかなというふうに思いました。いつも夏休みの計画を立てるのも、できもしない計画を立てて、結局できなかったっていうこともあるので、やっぱり計画を立てて、それを実行していくっていうことがどういうことなのかということをもう１回、子供たちが勉強する必要があるのかなと今回感じました。あと、学調の学んだことを活かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを

作り出したりする活動を行っていましたかというのは、こういう問いが生徒さんのところに出て、数値が低いというのは、機会が与えられてないからそういうことが出来なかったのか、そういう機会が与えられているけれども自分が出来なかったのか、それとも出来ているけど気づいてないのか、どれなのかなと思いました。というのも、私、白羽小学校に長年行っているのですが、浜の子発表会などは子供たちが自ら考えて作り上げていったりして、すごくできているなと感じているので、ここで小学生が13.4％というのは、自分たちができていることの評価を正しくしているのか、できていないのかもしれないという思いと、そこは周りができているよとか、こういうことが自分たちでやっていることなのだよというのを伝えてあげるのも必要なのかなと思いました。これに対して思った答えと、子供たちが自分たちで答えた回答との差が実はあるのではないのかなと少し感じています。小学校に関しては、点数でない部分はすごく多いと思うので、中学校の部活にすごく打ち込んでいる子たちが、中体連が終わって夏休みが終わった後、ずっと学力が伸びる子たちが多いというのは、やはりそれに対する集中力、何かに対する集中力とか動く力を持っているから勉強にも取り組めると思うので、小学校の低学年のときは、学力が低かったとしても何かに集中できるとか、何かをやりぬく力をつけることが、後半の伸びにつながると思うし、点数だけじゃなく最終的にはしっかりした大人になるということだと思うので、御前崎の子供たちは初め点数が低いけど、どんどん上がっていくよねとか、高校に行ってからの伸びが素晴らしいよねと言われるようになればいいなとちょっと感じていますし、この土地ならでは、それができるのではないかなとか、学力だけじゃない何かがあるのではないかなと思っています。

○御前崎市長（柳澤重夫）　はい、ありがとう。

○教育委員（松林義樹）　ちょっと質問のようなことになりますけれど、課題、成果と課題のページのところに、教師の講義型の授業から、子供主体の授業づくりへ転換を図る必要があると。小さい数字の 23 ページですね。これは、昨年度コロナで授業日数が減ったということから、出てきた課題というか、反省なのかどうかその辺どうですか。自分が授業を訪問したりして見させてもらったときに、または現職でいたときに、かなりそこら辺は改善されてきて、昔のような長期トークの授業から、小学校、もちろん中学校もよく工夫して授業改善を図ってきていたのではないかなと感じていたのですけれど、昨年度、授業日数が減ってその分、子供たちにある量、範囲の中を教えていかなければいけないということから、こうなってしまったのかどうか、ちょっと教えていただきたいなと思います。

○学校教育課長（鈴木秀和）　よろしいですか。現実問題から言うと、もう、松林委員のおっしゃるとおりに、新学習指導要領の全面実施は、数年前から移行していたので、主体的対話的で深い学びについては各学校で研修のテーマとしながら、グループで話し合ったり、ペアで話し合ったりという活動を大事にしましょうと言って研修を進めてきたところ、去年の休校があって、休校が明けた後も、密を避けなさいというところから段階を追って、よさそうなので隣同士とまず話をしようというところから始めて、感染対策をしながら、だんだんグループでの話合いをやっていきましょうというふうに、２学期の途中までそういう状態で行ったので、どちらかというと、コロナの予防という観点から、先生たちはやりたくても、そういう話合い活動を設けることができなかったというのが現実です。それでも、やはり予防対策に気をつけながらも、子供たちの学び合いを大切にしたいという先生たちの思いもあったので、そういう基本的な感染予防対策をとりながら、教育委員の皆様には、特に、１月に訪問をさせていただいたころにはもう子供たちが正常、いつもマスクとかはしていましたけれども、普通のそういう学び合いができたのかなと思

っています。ですので、多少なりともそのコロナの感染予防対策という点で、主体的対話的で深い学びをやりたくてもやれなかったという現実は、昨年度ありましたし、今年度も少し先生たちが遠慮をしている、気をつけている。だから、どうしても講義式の授業というのが少し多くなってしまっているというのは、現実だと思います。

○教育委員（松林義樹）　小学校のポイントがちょっと低いということで出ているのですけれども、小学生の授業を見ていても、本当に生き生きとやっている学校がほとんどで、主体性がないかというと、そういう学年もやはり自分としては変わらないなというふうに思っているのですけれども、そのポイントが低いっていうのが、自分が現職だったときに、そう言ってはあれかもしれませんが、テスト前、小学生はやはり、あれだけの膨大な問題量をこなすというようなことに慣れていない部分が出てきてしまって、中学へ上がるにつれてその差がだんだんだんだん全国と埋まってくるというか、中学校の先生はやはり、新しく新学習指導要領に向けてとか、それから入試だとか、この全国学力調査だとか、これに類似したような問題を校内テストなんかでも本当に出して力を伸ばしているか、または試させているというところがかなりあると思うものですから、小学校が主体性がというのは、自分はどうかなと、この資料を見させてもらったときにちょっと感じてしまいました。

○御前崎市長（柳澤重夫）　はい、ありがとうございます。はい、原崎さん。

○教育委員（原﨑志保）　御前崎は本当に主体性というものを本当に課題に挙げて、自分の意見を発言して、答えを導くというのを、中学でも本当にいつも見させてもらっています。私は小学校のほうは残念ながら訪問に行っていないのですけれども、この結果を見ると、小学生から中学生までのすごい成長が見えるというので感心しました。あと、中学生になって、自分の主体性を持って意見を発言し、答えを導くという話し合いの中での課題は、だいぶ進んできたと思います。７年くらい前からの子供たちを見ると、鈴木先生が言ってくださったようにかなり成長していると思います。ただ、高校生になると、そこを文章化してまとめるという、そこからまた課題が増えてくるのですけれども、そこのところも少しだけ中学で慣れさせておいていただくと、また高校になってこの子たち御前崎から来た子たちはこういうことを思って成長して上がってきたのだなということがちょっと見えるのではないかなと思っています。発言というのが話し合いの場では答えを導いています。導いたことがここに明確に、この資料とかも素晴らしく見やすい資料で私、感動していたのですけど、こういうふうに具体化として、誰にでも分かるように、最後、最終的にまとめるという形も、少しずつ、大変ですけども、触りだけでもやっていっていただけると、それが高校生になってふくらんで、社会人になるとこういう資料が出来上がるという過程になると思うのです。まだ大学もありますけどもね。大学生になった時にもっと大変な論文があったりとかすると思うのですけれども、そういった形で先を見据えた教育をしていただけるといいと感じています。以上です。

○御前崎市長（柳澤重夫）　はい、ありがとうございます。今、教育委員の皆さんからひととおり、御感想をいただきました。皆さんからお聞きしましたので。最初に増田委員さんからもお話しいただきました、対面での授業が出来なかったということも、少なからず影響しているのではないかというようなことでございますが、生徒と先生方の努力、こういったものも今、評価をされたということでありますので、こういったことも、特に中学生でこれは取り忘れたものも持てたのではないかなと思っています。

ひととおり、お聞きしましたので申し上げますが、竹田さんからは、私がいつも言っているような非認知能力、ジェームス・ヘックマンの話をしていますが、そういった話も出て、これは本当に幼児期から大切な能力であると思いますので、こういったことも、小学校、中学校の中でも、そういったものを身につけるような教育も、もう少しこう肉付けをしていくようなところがあったらいいかなと私も日頃思っていますので、そのとおりだと思っています。そういった中で、今、アクティブ・ラーニングという話もありましたが、どこかの学校では、対面で先生と生徒の授業でなくて、その先生が課題を出して、小グループ、クラスの中の３人とか５人の小規模グループの中で問題を解いてしまう。解決させるようなことをしてきて、授業が最後は終わるような、そんなことも聞いたことがあったのですが、先生が最後まで対面でなくて、子供たちに投げかけて、子供たちのグループか何かでそれをお互いに共通の課題の中で解決していくと。これを子供同士でやっているようなことも聞いたものですから、そういったものは必要じゃないかなと、そんなふうにも思っています。

学び直しとか、お話がありましたが、これも学び直しは子供たちばかりではないですよね。大人であっても生涯学習の中で、いろんなことを学び直しする必要があると思いますので、これは子供と家庭と、地域の中で、できることは、そういったことをやってほしいなというふうに思っています。

それから、島田さんが計画的に立てて勉強をすることを言っておりまして、そのとおりでありますが、なかなか自分で計画を立てるというのは出来ないと思うのですよね。ただ、いずれ社会へ出れば、そういった計画を立てて行動することが必要になりますので、私はいつもだいたい夜、大体こう何時から何時ということを寝るときに考えています。私も仕事するときもそうですが、大体そうするとすごく能率よくいくのですよね。朝起きて、今日は何をしようかって言えばもう駄目なのです。もう寝るときに考えておく。何時から何時までこれをして、これを終わる。それをやらないと、もう全く１日が全くだめにはなりませんが、計画的に１日が執行しませんので、そういった計画ができれば子供もそうですが、学校から終わってきたらこうしましょうとか、そういったことを立てるということは、これからの人生の中で大変重要なものになると思いますので、ぜひともそういうこともできたら、取り入れるようなこともやってほしいなと思っています。

松林先生からも話がありました。23ページですか。今言ったように子供主体の授業づくりへ転換、これは先ほど松林さんが言ったように、グループ同士でやるような子供主体で任せてしまう、こういったことも、時には必要ではないかと思います。そうすると、落ちこぼれがないというか、子供同士で解決をすればそういうこともありますので、こういったものをやってほしいと思います。しかしながら、御前崎市のものを読みますと、基礎学力、上位層がなくても下位層がなくても、中間層である程度の基礎学力は定着しているというような話がありますので、これが１番大切じゃないかと思います。

それから、野口さんからも今、下位層から上位層の子供たちに合った学習課題という御意見がありましたが、これ前に、先に進むきっかけづくりといいますか、そういったことをきっかけに、やってほしいなと思っています。自分ができる、基本ができる計画づくり。そういったことも、今後の人生の中で大切なことでありますので、やっていただきたいと思います。そういった中で、スポーツとかやっている子供は得意な気がしますよね。これ齋藤孝という教授、テレビを見ていますと、齋藤孝さん、あの方がよく言うのですが、勉強だけじゃ駄目だよ。もういろいろなものを、スポーツなんかやって、いろいろなことをやっている子は、かえって学力が上がってくるよということを言っていましたので、そういうことだと思うのです。ですので、いろいろなことを体験しながら、いろいろ意欲的になると思うのですよね。ですので、そういったものも勉強のほうに反映されるということも、だいぶ経過として出てきますので、いろいろなものに打ち込む。

そういった子供は何でも打ち込むような力が出ますので、そういったこともおっしゃるとおりだと思いますので、これもぜひ、心掛けていただければと思います。

それから、原﨑さんがおっしゃったように、子供が主体性といいますか、そういったものを持ってやっていかないと、何でもかんでも人任せでは成長しませんので、全ては子供に任せるわけにはいきませんが、部分的には、子供さんにこの主体性を持たせてやらせきるというか、そういったことも必要だと思います。

皆さんのお話を聞いて、学力ばかりでなくて、さまざまな社会性を身に着けるようなことも、今、御意見いただきましたので、大変ありがたいなと思っております。今、ＡＩとか、デジタルとか、そういうことが盛んに言われておりますが、今までどおりの教育方針でいいのか、また、これからのこういった社会に対応するような人間を育てる。教育の中でそういったことも少なからず必要になってくるのではないかなと、そんなことも思っております。私どもはこれも着いていけませんで。今、これからの子供は生き抜いていく子供をつくるのが、また教育の仕事でも、あると思いますので、ぜひとも、教育委員の皆さんと先生方と一緒になって、保護者もそうですが、ぜひともこういった御前崎ならではの教育といいますか、子供の育て方といいますか、こういったことに取り組んでいただきますと、ありがたいと思っています。御前崎の子供ってすごいな、こう思ってもらえるような子供を育てていただけるようにお願いをいたします。

それでは、これから、25ページ以降について、事務局から説明をお願いしたいと思います。

○学校教育課長（鈴木秀和）　貴重な御意見をありがとうございます。小学校の結果が若干低くて、中学がよくなっているというのは、実は当市だけの傾向じゃなくて、静岡県全体的に小学校の正答率が低くても中学になると上がるというのがずっと数年続いていて、これは、竹田委員さんが言ってくださった意見の中に、その結果が分析できるのかなと思うのですが、やっぱり小学校どこにいっても、すごく子供たち、生き生きと生活していますよね。その中で友達と関わることが楽しかったりだとか、その中で話を聞くことのルールを身に着けたりだとか、そういう学級経営の中でそういう学びの基盤というのをしっかり小学校で育ててくれているので、その基礎を発揮して中学で、それから高校でというふうになっていっているのではないかなというふうに。なので、結果的には小学校はちょっと心配かなっていうふうな結果ではない。違う見方をすると、与えられたものを丁寧にやる習慣を身につけさせてくれる。だから主体的っていうよりも、どちらかというと、とにかくしっかりやらなきゃいけないことをやりましょうというふうにエネルギーを注いで指導をしている成果が、中学になると発揮されるのかなと、今、話を伺いながら、そんな見方をちょっとさせていただきました。

続いて、スクラムスクール運営協議会の中で取り組んできている子供たちの基本的な生活習慣の課題についての質問紙調査と、それから標準学力調査の同じく質問紙調査、ｉ－ｃｈｅｃｋといいますが、その結果について説明をします。まず、質問紙調査の中で数値の高い項目がどういうものかというと、まず、朝食を毎日食べていますかっていうこの質問について、やはり毎日食べていますよって答えている子供たちも、平均正答率が高いので、私たちが子供たちの学力と生活習慣との関係を着目して、スクラムで取り組んできている「早寝早起き朝ごはん」というのは、今回の結果の中でも非常に重要だなっていうことがわかりました。同じ時間に寝ているっていうものについても同じく、やはり、していると回答している子供たちのほうが、正答率が高い。それから、同じ時間に起きているというものについても、同様の結果が言えるので、早寝早起き朝ごはんというのと、それから学力という点では相関があるので、そこを大事にしながら、御前崎の子供たちを育てていくという取り組みについては、継続して大事な傾向にあるのかなというふうに思っています。結果的に全国と比べるとどんな感じなのかというのが、この表になるのです

が、朝御飯を食べているっていう割合については、中学は98.3%、これまでの取り組みっていうのが、子供たちや各家庭にも、浸透してきている結果なのかなと思っています。同じ時間に起きていると答える割合については、市のほうがちょっと低いのですけれども、同じ時間に寝ているというものについては、全国よりも高い結果になったので、「早寝早起き朝ごはん」というのを、ずっと平成 29 年頃から続けてやってきていることっていうのは、少しずつ少しずつ、子供たちの生活習慣にも、良い影響を与えてきているのかなというふうに感じています。

それから、数値の高かった項目ですが、これは例年もそうなのですが、住んでいる地域の行事に参加していますかと答える割合については、圧倒的に全国よりも小学生も中学生も高いので、地域とすごく子供たちが密接な関係にあるというのが御前崎の良いところだなというふうに感じています。逆に課題となっている項目がこれです。メディアの利用時間について、平日１日どれぐらいの時間、ゲーム、ネットやコンピュータ、スマートフォン、これをしていますかという回答なのですが、小学校、これは６年生の結果なのですが、やはり２時間以上やっていると答えている子供たちの割合が、全国に比べると小学生も高いです。これが中学３年生になるともっと顕著です。２時間以上と答える割合が全国よりもやはり凄く多いという結果が全国学力学習調査の質問紙調査から見られました。それから、小学校２年生から５年生、中学１年生、２年生の結果なのですが、これは、ゲームをしたりしますか、質問のされ方が全国学調とちょっと違うのですけれども、３時間以上利用しているって回答している割合が、これは実は学年が上がるにつれて、利用時間が多い子供たちが多くなっているという傾向が見られています。数値が高い項目っていうのは、ずっと取り組んできた生活習慣のことであったりだとか、決まりを守ったりすることだとか、地域の行事に参加したりだとかという社会参加に対することについては、御前崎の子供たちは肯定的に回答する子供たちが非常に多い。これがいいところだなと思いますが、やはり課題となっているのは、メディアの利用の時間がやはり全国に比べると多い傾向がまだ続いているというのが課題かなと思っています。スクラムスクール運営協議会でメディアのネット障害とゲーム依存に取り組み始めて、ここ今、２年、３年になるのですけれども、今井教授の講演だとかも、去年も、やりたくてもやれなかったのですが、利用時間の多い子供たちが多いという課題が、また今年度の結果でも得られました。スクラムで取り組んできてすぐに特効薬のように効くということはないのですけれども、ネットを使うなという時代ではないので、上手につき合っていくという子供たちを増やしていくにはどうしていったらいいのかなというのが、今回も話題のひとつになるのかなと思います。皆様の御意見をよろしくお願いします。以上です。

○教育長（河原﨑　全）　１点、訂正をお願いします。30ページの早寝早起き朝ごはんですが、同じ時刻に起きているかと、同じ時間に寝ているかの数値が逆になっているものですから、同じ時間に起きている子は多いです。９割です。同じ時間に寝ているかという子のほうが７、８割という、段を入れ替えていただきたいと思います。

○学校教育課長（鈴木秀和）　失礼しました。申し訳ありませんでした。

○御前崎市長（柳澤重夫）　起きていると寝ているを入れ替えればいいのだね。

○学校教育課長（鈴木秀和）　そうです。

○御前崎市長（柳澤重夫）　早起きはいいのですよね。

○学校教育課長（鈴木秀和）　早起きはいいのですが、やはりメディアの利用時間が多いので、同じ時間に寝ているっていうのについては、やはり全国よりも小学生はちょっと低かったりだとか、中学生も全国よりちょっと低かったり、そういうことです。すみません。失礼しました。訂正をお願いします。ありがとうございます。

○御前崎市長（柳澤重夫）　ただいま、この生活習慣、これは家庭内のこと、主に、どっちかというと、そういうことになりますが、これについても、皆さんも関心があろうと思いますけれども、一言ずつ御意見をいただければありがたいと思います。家庭内の保護者の考え方にもよるし、一言でというのは難しいと思いますが、少なくてもこれは改善するとか、これからのネット社会の中でこういったゲーム感覚といいますかね、こういったことも必要だと思う人もあるかと思いますので、一言ずつ、もし御意見があったらお伺いできればと思います。

○教育委員（増田克之）　長い時間の利用っていうのは、コロナ禍との関係はどうなのでしょう。ニュースなんかでは、コロナ禍で、ゲーム業界の業績がアップしているというニュースを聞くのですけれども、そういう影響が子供たちにも出ているのかどうか、そこまでは、やはりこの調査ではわかりませんか。

○学校教育課長（鈴木秀和）　そうですね。ただ、この傾向は、コロナ禍に入る前から続いているので、コロナだから利用時間が多くなった。確かにそういう子供もいるのかもしれないですけれども、市の子供たちの全体的なところでいうと、やっぱりちょっとこの調査に表れていないのですけれど、親が利用時間についての約束事を決めているかどうかという保護者のアンケートをとったりしています。それについて、やはり子供たちはしてない、約束していないと答えるのだけど、親はしていると。若干、親と子供の認識の違いがあるということについて、そういう差があるというのはちょっとスクラムスクール運営協議会の中でも、説明させてもらっているところですので、やはり、コロナがというよりも、そういうところの問題のほうが大きいのかなという気はします。

○御前崎市長（柳澤重夫）　はい。ほかにいかがでしょうか。はい。竹田さん。

○教育委員（竹田和世）　家庭力という言葉があったのでちょっと質問ですけれども、生活習慣を身に付ける、そういう家庭のそういう力というのは、大きいのだろうなと思います。気になるのは、全国と御前崎市のスマホとかゲームの保有率、そういうのはどうなのだろうなっていうこともちょっと思います。自分のことなのですけど、我が子が初めてゲーム機が出た頃の世代だったと思うのですよ。それで、みんな持っているから買ってという。親ってみんなと言われると弱いところがあって、自分の子だけがないのではかわいそうだなという、そういう親心みたいな、御前崎市に限定するわけではないのでしょうけれど。でも、私の周りでも、皆っていう言葉に弱いお母さんが多かったかなというのは思います。それから、この間テレビで小学校が、都会でしたけど、10月以降に修学旅行になってしまったらもう行けませんね。なぜかって言ったら、中学受験があるからって、この辺との違いというのはそういうところもあるのだなと思ったのですけど、この全国っていうのは、都会だけじゃなくって、全国そうですからね。それだけでもないなとか、そんなふうに思いました。ちょっと唯一の気になるところです。

○御前崎市長（柳澤重夫）　はい。ありがとうございます。はい。原﨑さん。

○教育委員（原﨑志保）　最後の質問、これがすごく問題にはなっていると思うのですけれども、平日は１日にテレビや動画をみたりインターネットを使ったり、ゲームをしていますかという中学２年生65.9％、３時間以上というのが少し首をかしげる感じなのですが、このすごくおおまかに聞かれている質問なのですけども、これゲームなのか、インターネットってＹｏｕｔｕｂｅとかもそうですよね。最近の子供は、ドラマとかテレビは、ほぼ見ていないです。そのＹｏｕｔｕｂｅが大人のテレビと同じで、ニュースとなる。それと、同じ感覚で見ているのではないかなと思うのですけど、そうすると、見ていてわかるのですけど、Ｙｏｕｔｕｂｅも自分の選択するＹｏｕｔｕｂｅによっていいものもあり、悪いものもあり、そこも悪いものも自分で判断できるそういう子になってもらいたいとは思っているし、そこがちょっと難しいのですけども、やっぱり最後は、本当に今の時代、ネットとうまく付き合う、自分のネットの使い方、誹謗中傷ですごい今言われていますけれども、そういったことはしないとか、そういうことを少しずつ教えていくのも、今の子たちにとっては大切なのではないかなと思います。土地柄として、大変申し訳ないのですけども、子供にとって娯楽のない土地なので。私もそれがいいのか悪いのか分からないのだけれども、ほかの土地の子は学校帰りにどこかに寄って来たりとか、友達とどこかでお茶をしてきたりとか、そういうところもない、高校生などカラオケに行って帰ってきたとかっていうのもないという時代のところを取ると、家に帰ってきて３時間くらいやっていても仕方がないのかなとも思ったり、私たちも休日、何かすることないと３時間くらいちょっと携帯やることもあるので、実際、この数字がいいのか悪いのかわからないのですけど、鈴木先生が言ったとおり、これからは上手に付き合っていく、いい判断と悪い判断をネットの中で教えていく。あとは、体に良くないよと言われても、大人もＴＶを夜中まで見続けるとその次の日は寝不足になったりしたこともあると思うのですけれど、そこはやるといけないよとか小さい画面を見ると目に良くないよとか、そういうことを知っていったりとかするといいのではないかなと思います。以上です。

○御前崎市長（柳澤重夫）　ありがとうございます。ほかにありますか。

○教育委員（島田惠美）　メディア利用は、原﨑さんがおっしゃったように本当にすぐに変わることではないし、スクラムスクールでも一生懸命課題をあげてやっているので、本当にうまく利用してやっていくということを伝えていくことが大事だなと思います。それで、小学生もほとんどの子が携帯とかを持っていると思うのですけれども、注意していく側の親が与える時期を遅らすといいますか。小中と渡さなくて、高校から持たせたのですけども、携帯を。子供ってすごい能力があるので、遅く持たせても今まで持っていた子と同じように扱うことができるので、そういうことが可能ならば、持たせるのは遅くさせるのがいいのではないかと個人的には思いますけれども、そこは家庭の事情がありますので。それで、規範意識を伝える、自己有用感を高めるというのは大切かなとすごく思うのですけれども、家族が子供たちにかかわることによって自己有用感が高められるということがわかってきています。特に、話を聞いてくれる、話しかけてくれる、褒めてくれるという周囲の大人たちの言動がとても大事になってくると聞いたので、ゲームに没頭するだけではなくて、子供たちの頑張っていることとか、そういうことも褒めてあげる、自分は頼りにされているという実感を高めた意識できるような言葉がけとかもしていくことも大事かなと思いました。つながりというわけではないのですけれど、ゲームばっかりやっているからゲーム任せっぱなしにならずに、かかわりっていうものをもう一度力を入れていったらどうなのかなと思います。

○御前崎市長（柳澤重夫）　はい。松林さん。

○教育委員（松林義樹）　35ページの、３時間以上の利用者の数の多さには、自分もこれを見てびっくりしたのですけれど、これだけ多くの子たちが使っている割に、割にと言ってはおかしいですけど。朝ご飯とか、朝起きるとか、早めに寝るとか、そこらへんが守られているというのが、ちょっとはてなマークがついてしまうのですけれど、やはりそこらへんは長年というか、ここ数年、スクラム・スクール運営協議会等で「早寝早起き朝ごはん」ということを呼びかけ続けてきて、ここら辺の数値が落ち着いてきているとか、よくなっているところもあるのかな、成果が出ているのかなというのも感じました。そこに規範意識だとかということが書かれていますけれど、今、１人１台端末を持たせて、いじめや自殺になってしまったとか、ルールをきちんと設定せずに渡してしまったというようなことも指摘されているのですけれど、本当にそういうようなことがない使い方の指導というか、チェックというか、中学生はメール等で、携帯のチェック機能、以前もやっていたと思うのですけれど、スマホとかＳＮＳなどをチェックするように市で取り組んでいるとか取り入れるとかっていうのはまだそこまではいっていないですか。

○学校教育課長（鈴木秀和）　ネットパトロールはやっていますが、やっぱり個人のグループの中でやっているものというのは見られないです。ですから、そこはなかなか踏み込めないです。行政では、踏み込むことがなかなか難しいかなと思っています。

○教育委員（松林義樹）　本当に絶対あってはいけないことということで、継続的に指導していくしかないのかなと、早寝早起き朝ごはんと同じような形で今もやってくれていますけど、それを継続していくしかないのかなということを感じます。今、自分は、東小の不登校だった子が学校へ行き始めて、特別教室で１人学習しているものですから、週２回くらい行って、その子の勉強をみているのですけれど、算数の計算問題のプリントが出てくると、Ｃｈｒｏｍｅｂｏｏｋでやろうとするのですね。筆算でやるのではなくて。Ｃｈｒｏｍｅｂｏｏｋでやれば絶対に間違いはないです。そのほうが正確で早くできるから、そっちでやればいいじゃんと言って、その子がやってしまうのですけれど、これから大学受験なんかでも、持ち込んでテストをやるとかという時代になっていくと、やはり使えないでも困るし、小学生のうちから、今、手が出されたものですから、慣れさせるということも非常に大事になってくるものですから、根気がいることですけれど、みんな慣れさせて規範意識をしっかりと、マナーを守れるような、そういう児童生徒を根気よく育てていくしかないのかなと。それは、学校ばかりではなくて、行政だとか社会だとか家庭ももちろんですけれど、やっていくしかないかなということを感じました。

○教育委員（野口智美）　ネット利用時間と学力の関係が、何かさっきの朝ごはん食べている子の学力がこうだったとか、そういうグラフみたいなのがしっかりとデータとして出ていれば、親のほうも、ちょっと控えるようにというか、約束事として必要なのかなとか、子供たち自身もだからだめなのだというのが分かるかなと思いました。家でもけんかが始まったりすると、そんなゲームばっかりしているからイライラしてくるんだよとか、親もついつい口に出てしまって、何故、長い時間ゲームをしてはいけないのかということがちゃんとデータとしては伝えられていないので、そこら辺が出ると親も納得するかなと思ったり、健康状態もゲームを長い時間している子は目がこれだけのパーセント悪くなっていくのがしっかりと出れば説得力があるのかなと思いました。ただ、先ほども松林さんが言ったように、ネットをこれだけやっているにもかかわらずみんな元気というのは、やっぱりネット以外の時間に、この子たちは何をしているかというとこ

ろだと思うのですけど、都会の子と違って、外に出れば緑も多いし、うちの子ですけど、ネットを朝からずっとやっていて３時ぐらいにああ疲れたって言って、海に走って行って裸足で走り回ったりしています。そうすると、それまでの時間が彼の中では、帳消しになるのではないかというふうに思ったりしているので、ネットをさせないというだけではなくて、ネット以外の時間に何をさせるのかというところもすごく大切になってくるのかなと思いました。やる時間は、私は３時間で済んでいるのかって、びっくりしたのですけど。やっぱり、遊びに行くところが少ないので、友達のところに行くにしても、小学校の低学年だと１人で自転車では行かせられないとなると、親が送っていかなくてはいけない。でも仕事をしていると送って行けないとなると、通信で友達同士、おうちでゲームをして遊ぶとなったりとか、あと中学校のテスト勉強をするときにＬＩＮＥでグループにつながって、わからないところをＬＩＮＥで教えあいながら勉強したりというような様子も見られているので、この時間もここに入っているのであれば決して多くはないのかなとか、なかなか親がやらないと何か出来ないことが多い中、子供たちだけで話すということが、それをそのツールとして使えているのも地域ならではなのかなと思っています。ただ１つ、暇な時間が行動力を生むと思っているので、暇、暇、じゃあゲームしたらっていうふうになっちゃうのですけど、その暇な時間を大切にしたいというふうに思っていて、そこは夏休みとかに朝から晩までゲームをしているのはいかがなものなのかと思うので、そこは自分としてもやはり。なので、きっといろいろな御家庭でもそう思っていらっしゃるのかなと思いました。

すみません、長くなるのですけど、あと１つ、朝ごはんと学力の関係なのですけど、実は、妊婦が朝ごはんを食べる、食べないで、赤ちゃんの出生体重に大きな差ができていて、食べない妊婦さんは、赤ちゃんの出生体重が少し小さめというデータができています。2,500ｇ以下で生まれた赤ちゃんは、やっぱりその後の貧血の状態とかもあったりして、発達も少し遅れがちで学力も低くて、アメリカのデータなのですけど、将来自分の稼ぐ賃金も出生の体重によって違いが出るというようなデータも出ていて、体重増加率が昔は 10 kgまでにしましょうということだったのですけど、７kgから 12 kgまで、痩せている人はしっかり体重を増やしましょうという指導に変わっているのですね。なので、栄養というのは本当に大切なことなので、子供たちもなんですけど、御両親がちゃんと朝御飯を食べているだとか、赤ちゃんを育てている本当にもっと小さいお母さんたちが、ちゃんと栄養のことを理解しているかというところも大切になっているのかなと思いました。

○御前崎市長（柳澤重夫）　はい。ありがとうございました。はい、どうぞ。

○教育委員（増田克之）　ちょっと要望ですけれども、この情報モラルとかゲームとか、調査の問題、僕がやっていたときもそうでしたが、悪いイメージの調査が多いのですよ。何か子供たちをこんなふうに上手に使っているよという調査もしていただいて、それを我々も共有したり、保護者も共有したりしていくとちょっとこういうもののイメージも変わってくるのかなとも思ったりして、できれば、忙しい時間の中ですけれども、今年度、来年度の話題でもいいですので、やっていただけるとありがたいなと思っています。

○学校教育課長（鈴木秀和）　約束を守ってやっていますかとかという調査を、今までもやれているのですけれども、使い方に関すること等、また、今年度末にも保護者にアンケートをお願いする予定でいますので、その中で今の御意見を参考にさせていただきたいと思います。

○御前崎市長（柳澤重夫）　はい。ただいま、ネットでありますとか、そういったことの報告を

させていただきまして、また皆さんからさまざまな御意見をいただきました。今の子供たちの親たちが、ゲームに夢中になった年代ではないかと思います。なかなか子供のそれをやめさせるとかは難しいところですよね。そういう中で、これからの社会を生きていくためには、こういった技術といったものも必要なものでありますので、そういったことも含めて適正な利用をしていっていただければと思います。アメリカに、ミネルバ大学という学校があるのですが、なかなか受からないですけど、日本人でも確か２、３人しか行っていない。これはキャンパスを持たない大学で、世界中を４年間で７つの国際都市を回って、学習だけでなく実際に生活していろいろと学習している。それはキャンパスがないので、全部インターネットでやっていて、何を大学が求めているかというと、その地域で３か月か４か月いて、その地域の皆さんとコミュニケーションを深める。世界中を回って、そういったことを主にやっているそうです。ですので、世界中で活躍できる人が育つかわかりませんが、そういったことをやる時代になりましたので、インターネットがすべて悪いのではありませんから、いずれは、子供たちもそれを活用したテレワークなどもする時代になりますので、良い方法で育てていけるように御指導いただければと思います。ありがとうございました。

ほかに特にないようでしたら、よろしいでしょうか。事務局のほうにお返しします。

○司会　ありがとうございました。皆さんからこのような貴重な御意見ありがとうございました。今後もスクラムを推進継続し、粘り強く進めてまいります。

また、今日は健康福祉、総務の両部長も出席しております。健康福祉のほうでは 12 歳以上の希望者へのワクチン接種を進めております。総務のほうでも職員を含めた簡易検査キットの用意をしていただいて、教育環境への配慮をしていただいております。また今後も市をあげて子供たちのために御協力をよろしくお願いいたします。

５　閉　　会

○司会　それでは以上を持ちまして、令和３年度第１回御前崎市総合教育会議を閉会とさせていただきます。最後に互礼を交わしますので御起立ください。相互に礼。ありがとうございました。